

### 3. 「め組」の活躍

お江戸八百八町を仕切る「め組」などの活躍をテレビなどでお目にかかることがあります。め組などは今の消防署のようなもので、「ジャン、ジャン、ジャン」と半鐘が鳴れば威勢よく火消しのまといをもって現れ、「アツ」という間に火を消してしまい、町人の拍手喝さいをあびてドラマは終わる、という筋書きです。

ところが、この時代は消火作業ではなく「破壊消火」が中心であったようです。

火消すための三大原則は誰もが知っているように、「冷却する」「空気を遮断する」「燃えるものをなくす」ですが、当時の消防ポンプはせいぜい5～6mしか水を飛ばすことしかできず、冷却による消火作業はほとんど効果がなかったといわれています。

したがって、数軒先の家をトビで破壊し「燃えるものをなくす」方法により延焼をくい止める消火作業だったのです。今も出初め式でハシゴのりを披露する時にトビを使いますが、「め組」の大切な消火作業の道具であったわけです。